

沖縄・高江 米軍用ヘリパッド建設

沖縄から刻々と伝えられる映像は、強い怒りを感じさせる。表題は中日新聞 7 月 20 日「特報」。リードから — 沖縄本島のやんばるの森に広がる米軍北部訓練場の部分返還に向け、政府は米側との間で条件になっているヘリコプター離着陸帯（ヘリパッド）の建設工事を再開する方針を固めている。地元住民の反対で工事は事実上凍結されていたが、沖縄選挙区で自民の現職大臣が落選した参院選の直後に政府がにわか動き出した格好だ。住民の間で反発が強まっている。



連休明けの 19 日午前 6 時。沖縄県東村と国頭村にまたがる米軍北部訓練場の「N1 ゲート」前には、ヘリパッドの建設に反対する住民や支援者ら約 100 人が集まっていた。建設予定地に近いこのゲート前では、住民たちが工事車両を通さぬよう車 2 台を置き、その 2 台をガードするように車数十台が一行に並んだ。それらの車の前で、工事主体である防衛省沖縄防衛局の職員十数人や機動隊員数人が無表情のまま住民らと対峙。

突き刺すような強い日差しになり、機動隊員らは 2 時間ごとに交代。住民らはわずかな日陰を探しながら座り込みを続けていた。この日も約 2 キロ離れたメインゲートから工事車両が資機材を搬入、現場の緊張はますます高まっていた。

ヘリパッド建設工事が急展開をみせたのは、参院選翌日の 11 日朝だった。訓練場のメインゲート前には沖縄県警機動隊が配置され、沖縄防衛局がヘリパッド建設に向けた資機材を搬入し始めた。N1 ゲート前でも機動隊員と住民が小競り合いになる一幕も。17 日には、もみ合いに巻き込まれた女性(58)が頭部などを打ち搬送された。

建設に反対する住民のうち安次嶺現達さん(57)は「沖縄県民の声を一切無視している。安倍首相は沖縄の方々に丁寧に説明する、と言っているが、やっていることがこれだ。住民が 160 人しかいない高江に大量の機動隊を投入しようとしている」と憤る。既に完成している二つのヘリパッドを使ってオスプレイが夜間も飛び回り、騒音のために眠れなくなった子どもたちが避難生活を余儀なくされているという。

高良鉄美・琉球大法科大学院教授(憲法)は「沖縄では米軍基地に反対する声が高まっている。今回沖縄選挙区では現職大臣の当落がかかっており、与党は票が目減りするのを避けようと考え、投開票後に動いたのだろう」と推測。「沖縄の民意は全国の選挙結果と異なるのに、安倍政権は『国民から信頼された』とばかりに沖縄に圧力をかけてくる。民意を大切にするのが憲法の理念。政府が強大な力で民意を押しつぶそうとするのは大きな問題だ」と話している。

(2016 年 7 月 23 日)